

出来事と数字でみる聖隸の90年

【SEIREI】

1930 → 2010

様々な苦難を乗り越え、また様々な挑戦を続け、
聖隸福祉事業団は日本有数の社会福祉法人へと発展しました。
その歴史を振り返ります。

1920年代

1926
大正15年

長谷川保、大野寛二により聖隸の名称が生まれる。教会の青年達が社会事業を目的に「聖隸社」創業。長谷川保、山形春人ら「聖隸社クリーニング店」を開く。その後「消費組合浜松同胞社」を設立。



聖隸社クリーニング店

有志が結核患者の世話を始める。後に、5月1日を創立記念日とする。

貧しい結核患者の収容保護事業を開始。入野村大鱈（おおすざき）に「ベテルホーム（神の家）」を建築。



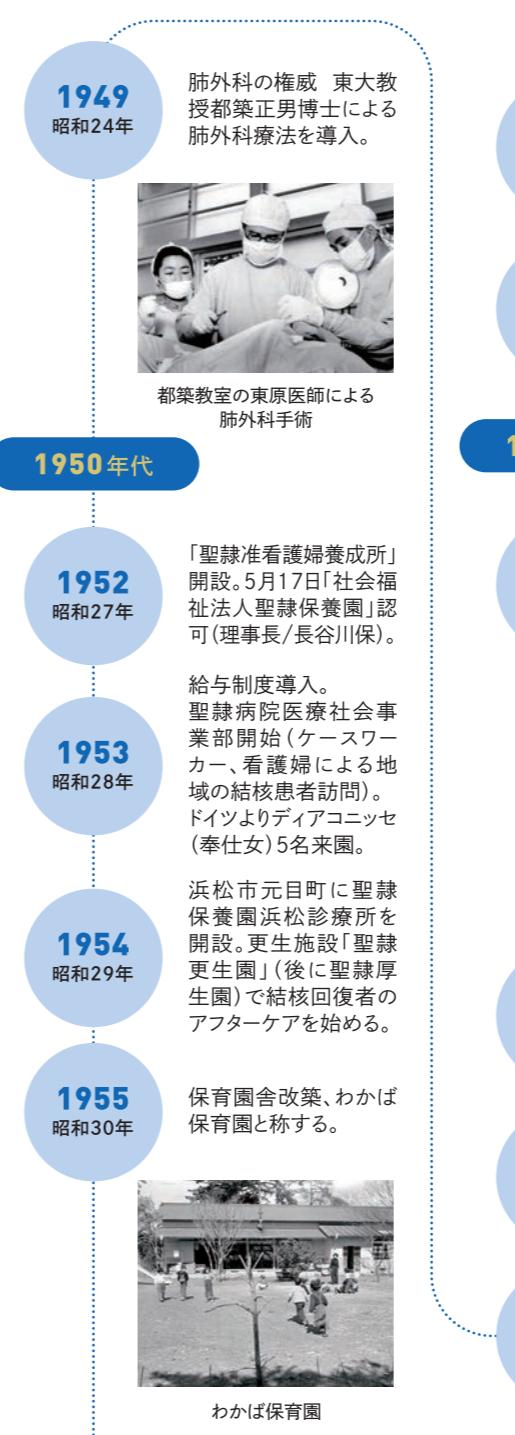
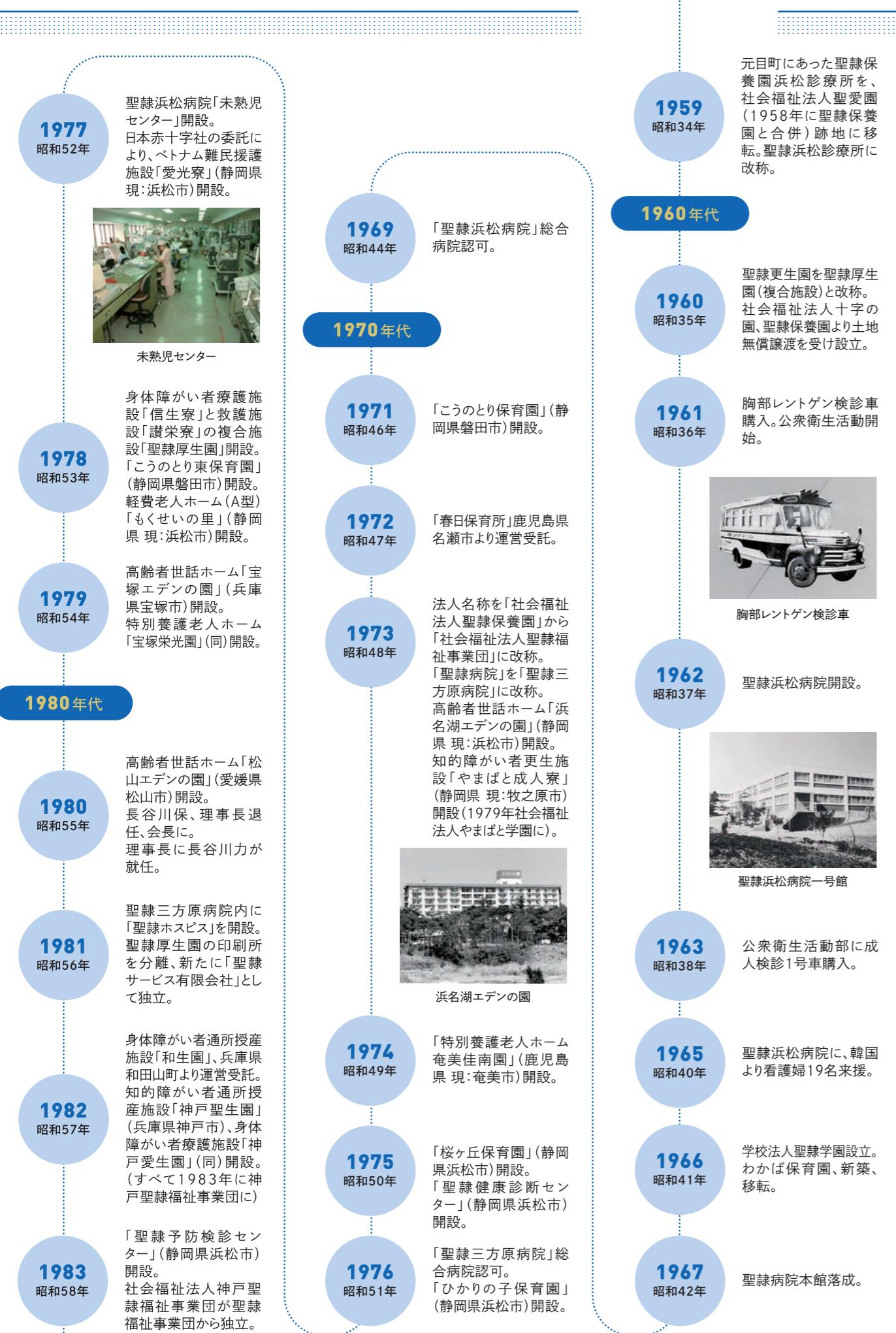
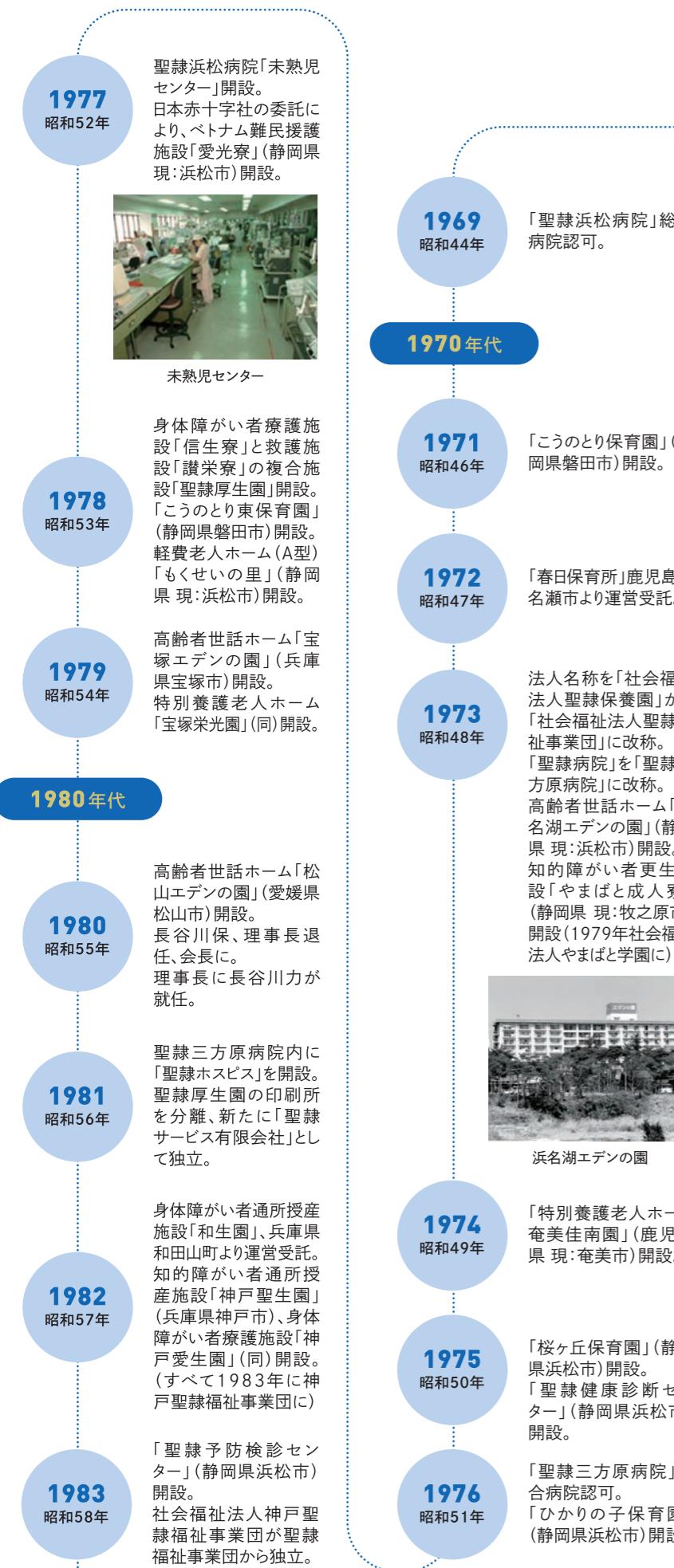
ベテルホームで働く看護婦と患者さん

三方原の県有林約6ヘクタールの払い下げを受ける。

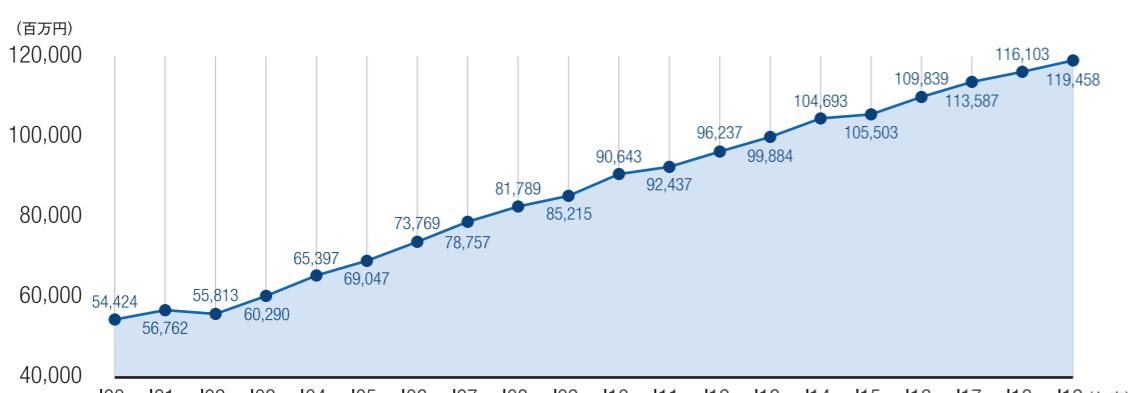
ベテルホームを三方原に移転。聖隸保養農園と改称。



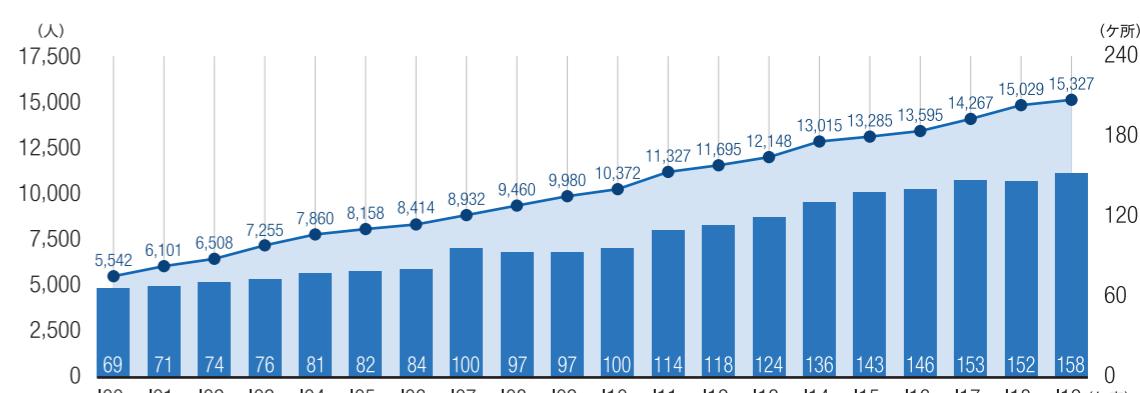
聖隸保養農園



SEIREI 90th 16 / 15



サービス活動収益推移



聖隸の職員数・施設数推移